

令和5年度 第1回 にじバス協議会・小平市コミュニティタクシーを考える会（合同開催）

- 開催日時：令和5年5月11日（木）10時05分～11時20分
- 開催場所：小平市役所 505会議室
- 出席人数：・にじバス協議会……………3人（欠席5人）
 - ・小平市コミュニティタクシーを考える会……………3人（欠席11人）
 - ・傍聴…3人

1 挨拶・自己紹介・進行役の選出

出席者の挨拶及び自己紹介を行い、進行役に小平商工会の森谷事務局長を選出

2 令和4年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績について（報告）

（資料1—①）

（資料1—②）

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 意見等

- ・コミュニティタクシー栄町ルートに乗車の多かった停留所に「東京都職員住宅東」停留所とあるが、「神明住宅」停留所の方が利用されているのではないか。
- （公共交通課）運行実績では、「東京都職員住宅東」停留所の利用の方が多い。
- ※参考「神明住宅」（815人/年）、「東京都職員住宅東」（998人/年）

3 運行を支える取組について

○公共交通課から説明

- ・新しい生活様式が定着しているため、コロナ禍前の水準に戻ることは難しく、物価や人件費も高騰していることから、運行経費に対する市の補助金額が増加している。
- ・利用促進活動等について、にじバス協議会及びコミュニティタクシーを考える会において、何度か意見を伺ってきたが、今年度からは具体的に検討していきたい。

○ワークショップ「地域で支える公共交通」や令和4年度第3回の意見を抜粋して説明

利用促進策について

- ・地域や商店とイベント等でのPR
- ・地域の集まりや口コミで、コミュニティバス、コミュニティタクシーの認知度向上のPRや便利な乗り方を周知

運賃以外の収入の確保について

- ・停留所名、車両のラッピング広告
- ・協賛金の募集

◆ 意見等

- ・以前、検討した取組以外に新たな取組がないかということか。
- （公共交通課）令和4年度の検討内容のほか、新たに意見があればそれも含めて検討していきたい。

利用促進を踏まえた運賃体系の見直しについて

- ・コミュニティバスは、通勤や通学で駅に向かう利用者が多いと考えるため、定期券を販売してはどうか。定期券の利用により、車内広告を目にする機会が増えれば、車内広告の価値も上がり、新規事業者の獲得にもつながると考える。
- （公共交通課）コミュニティバスは通勤や通学にも使われているが、定期券については、他市の状況を確認する。
- ・定期券があることで利便性が向上すると考える。定期券の金額設定が難しいと思うので、路線バスの運行事業者とよく検討する必要がある。
- （公共交通課）定期券の金額設定（割引率）については、国土交通省の定める一定の規定内で設定し、認可を得る必要がある。
- ・割引をすることで、利用が増えるような金額設定にする必要がある。

利用促進策について

- ・利用促進の目的によって取りうる手段は変わってくるので、方針を示してほしい。漠然とした中で検討することは難しいが、利用促進策には喜んで協力する。すぐに実施でき、広告の効果があり、収入も見込めるものは、車外広告や協賛金になると考えている。
- （公共交通課）コミュニティタクシーには、高齢者や子育て世代の日中の移動支援の視点もある。「（仮称）小平市の地域公共交通の基本方針」の中で、引き続き、福祉的な視点を含めて検討を進めていきたい。
- ・本日、具体的に決める必要があるか。
- （公共交通課）何か決めることができれば望ましい。
- ・「バスとタクシーのひろば」での周知・PRは考えているか。
- （公共交通課）コミュニティバスやコミュニティタクシーの車両を展示し、周知を図る。また、チラシやパンフレットを配布して、公共交通の案内をしていく。
- ・利用促進のポスティングをする場合、コミュニティタクシーの利用が考えられる地域を想定した方が良いが、停留所から半径何メートル位までを想定しているか。
- （公共交通課）東京都の「東京における地域公共交通の基本方針」では、鉄道駅から半径800m以遠、バス停留所から300m以遠の地域が、交通が不便な地域と設定されている。
- ・現在、チラシなどは配布しているか。
- （公共交通課）にじバス・ぶるべー号通信を全ての自治会に班数分を配布している。
- ・コミュニティバスから、小平駅北口のコミュニティタクシー（大沼ルート）に乗り継ぎ、昭和病院に行くことができることを、コミュニティバスの停留所に掲示し、案内してはどうか。他のルートとの連携を記載した案内図を、停留所や車内に掲示すると利用が増え、小平市全体の交通のイメージが付きやすくなると思う。

- (公共交通課) コミュニティバスとコミュニティタクシー (大沼ルート) の接続については、停留所に掲示していないが、公共施設等で配布している時刻表には記載している。実際にコミュニティバスから乗り継いで、利用する方がいるので、停留所に案内を掲示することで、さらに利便性が伝わるため、掲示については検討する。
- ・数年前に地域の小学生が描いた絵を、コミュニティバスやルネこだいらに展示したことがあったが、もう一度実施したい。

土日運行について

- ・利用促進として周知・PRも重要だと考えるが、コミュニティタクシーは、土日運行と運行時間延長が利用者数につながると考えるため、「(仮称)小平市の地域公共交通の基本方針」の中で検討していただきたい。
- (公共交通課) 市補助金の現状の枠組みではコミュニティタクシーの土日運行は難しいが、要望があることについては認識している。「(仮称)小平市の地域公共交通の基本方針」の中で、考え方や方向性について検討していく。
- ・土日運行に当たっては、運行経費の課題があるため、運行便数を減らすことで、検討の幅が広がると考える。
- また、土日運行等について、本当に検討しているのか疑問を抱かれないよう、具体的にパターンごとにできない理由の説明をいただきたい。
- ・土日曜日に、ゆっくりと子どもを連れてコミュニティタクシーに乗りたいという声を聞く。

運行ルートについて

- ・1時間に1便でも、コミュニティタクシー (栄町ルート) を府中街道の大きな商業施設に行けるようなルートにして欲しい。
- (公共交通課) 運行ルートについては、住宅地開発や道路状況の変化に合わせた見直しの必要性も含めて、コミュニティタクシーを考える会で検討する内容である。
- ・路線バスが運行していない地域を補完するために、コミュニティバスやコミュニティタクシーを運行するという考えで、路線バスが運行している地域は、既存の交通手段を利用してもらおうという考えか。
- (公共交通課) そのとおり、路線バスが運行している地域は、その路線を利用してもらいたいという考えがある。
- ・利用促進の目的は、利用者を増やすことと、福祉政策的に利用者を増やすことと、どちらの優先度が高いか。それにより、運賃収入の目標と広告費をいくら投入するかが変わってくる。なるべく、広告費をかけずに周知を図ることか。
 - ・採算目的か福祉目的かの視点は大切であり、福祉を目的とすると公共施設を結ぶルートを積極的に考える必要がある。それは、採算目的ではなくなるため、福祉部署と公共交通課が、より密になってアイデアを出す必要がある。庁内関係課の会議を有効活用して検討して欲しい。

4 バスとタクシーのひろば in 小平 2023 について

○公共交通課から説明

◆ 意見等

・イベントのために、西武バスの臨時便があるということだが、どの駅からか。チラシ等に記載はあるか。

→（公共交通課）西武バスの小平駅南口発、小平営業所行に臨時便があり、帰りの時間帯にも臨時便を運行する。市のホームページに掲載している。

・新東京自動車教習所のシャトルバス（スクールバス）は利用できるか。

→（公共交通課）スクールバスの運行はない。

・以前は小川駅東口からすぐだったが、今回は何人くらい来る見込か。

→（公共交通課）初めて実施する会場のため、人数は読めないが、小川駅西口から歩いて10分程度なので大幅には減ることはないと考えている。

・小平駅南口からの臨時便については増便か。

→（公共交通課）イベントのための増便で、イベント開催中の時間で、1時間当たり2便程度の増便である。

・以前から運行がある路線か。

→（公共交通課）そのとおり。小平営業所行の路線の臨時便である。

・最初から最後まで参加できる人でないと、協力できないか。

→（公共交通課）1時間でも構わないので、ご協力いただきたい。

・会場は広がるか。

→（公共交通課）今回は、会場がかなり広くなり、教習所のコースを生かした、「ボンネットバスの乗車体験」のプログラムを実施する。

5 その他

・次回の開催は、例年と同じく7月頃を予定している。